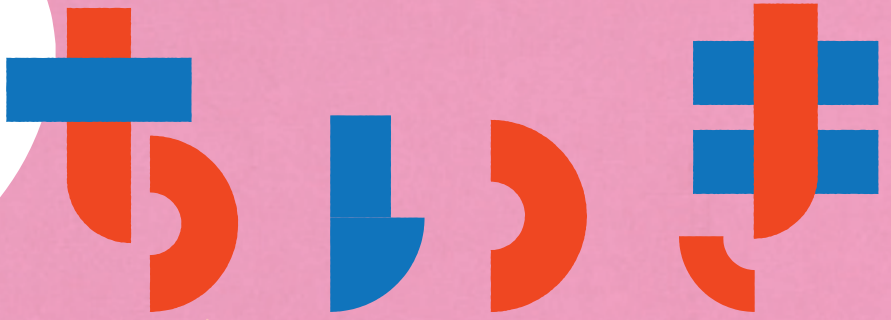
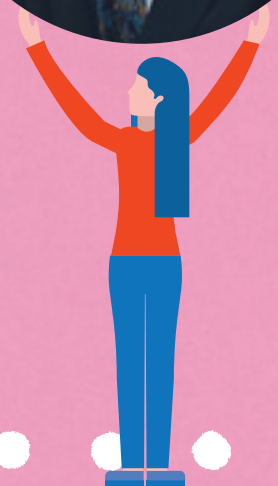
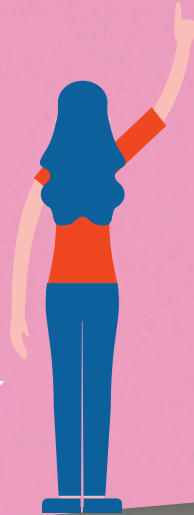


WE
LOVE



April 2021
地域医療支援学レター

vol.
35



CONTENTS

- 活動報告
- セミナー報告
リレートーク第35回
- パンデミックは地域医療を変える
独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター
病院長 飯田 博 先生



活動報告

令和3年1月23日(土) 13:30~16:00

令和2年度 島根県医師事務作業補助者 研修会 (Web開催)

【講師】松江赤十字病院 副院長 村田 陽子 先生
 【参加者】131名
 【主催】島根県健康福祉部医療政策課・一般社団法人しまね地域医療支援センター・島根大学医学部地域医療支援学講座

島根県から委託を受けているワークライフバランス事業の一環で、共催で行っている事業である。

この研修会は医師事務作業補助者のスキルアップとその役割について理解を深めることを目的としている。2024年4月の「医師の働き方改革の実現」に向けた議論が進む中で、医師事務作業補助者は医師の事務的な業務をサポートし、医師が本来の診療に専念できる環境を整備するための重要な職種の一つと考えられている。

講師は松江赤十字病院の副院長で、昨年9月には病院職員の環境改善の取り組みが地元紙に掲載された村田陽子先生にお願いし「乳腺疾患の基礎講座」と「医療クラークへの期待」についてお話し頂いた。

また県内の3病院から、取り組みの状況を発表頂き活発な意見・情報交換が行われた。



令和3年1月26日(火)17:00~18:00

地域医療体験実習Ⅱ (フレキシブル実習) ・学会報告会 (Web開催)

【参加者】7名(学生3名、地域医療支援学講座4名)

講座は、地域医療に興味ある学生が自ら計画立案する実習の支援を行っている。令和2年度は夏期休暇中に15名の申し込みがあったが、県内に新型コロナウイルス感染症のクラスターが発生し、中止となった。そのため、今回の報告会は令和元年度後半の参加者で行った。また、講座では学生の学会参加支援も行っており、併せて学会参加報告も行った。

実習・学会に6名の学生が参加し、報告会には3名の学生が出席した。報告会は、各実習施設および学会発表での学びや自己の課題等を整理し、活発な意見交換が行われた。学ぶ意欲の高い学生達の、受け入れ施設への感謝の気持ちと成長を感じる報告会であった。

なお、報告会に参加できなかった学生については、個別に報告の場を持った。



令和3年2月6日(土)9:30~12:00, 13:00~16:00

第11回中四国地域医療フォーラム 参加 (Web開催)

【主催】愛媛大学医学部附属病院地域医療支援センター
 愛媛大学大学院医学科研究科 地域医療学講座
 愛媛県保健福祉部社会福祉医療局医療対策課

今年度は新型コロナウイルス感染症の拡大の為、Webでの開催となった。午前はブレ集会で、「地域医療関係講座の現状と課題」というテーマで8大学からの報告が行われ、意見交換を行った。午後は本会で、「地域卒業医師の専門教育とその後の配置」について、各県からの事例紹介・報告がなされ、活発な議論が交わされた。続いて地域枠出身医師2名の方から近況報告が行われ、参加学生には将来の自分が少し描けたのではないかと感じた。

次年度は、島根県健康福祉部医療対策課、しまね地域医療支援センター、島根大学医学部地域医療支援学講座が主催することになり、開催県として、当講座教授の佐野が挨拶を行った。



令和3年3月4日(木)9:40~16:10

臨床実習入門特別プログラム 男女共同参画講義

【場所】島根大学医学部看護学科棟N11.N12教室(収容率50%以下)
 【対象者】島根大学医学部医学科4年生
 【主催】島根大学医学部地域医療支援学講座 島根県医師会

午前は、オンラインで広島大学蓮沼直子先生に「医学生生の為のキャリア入門」というテーマでお話し頂いた。ライブイベントに影響されるキャリアについてシナリオが提示され、グループワークを行った。4Gが話し合い結果を発表し多様な意見について共有した。

午後は、2名のキャリアモデルの紹介と島根大学における男女共同参画の取り組みについてお話し頂いた。また、島根県医師会春木有子先生に「女性医師の子育て〜8年間で何が変わったか、何が変わってないか〜」、立命館大学筒井 淳也先生に「家族社会学からみた現代の家族とケア」と題して講演頂いた。

学生達は、様々な切り口からお話を聞き、話し合い・思考し、自己のキャリアデザインを含め未来を描く濃密な1日になった。



令和3年3月6日(土)13:30~16:30

令和2年度総合診療専門医 プログラム説明会 (Web開催)

【講師】隠岐島前病院 院長 白石 吉彦 先生
 【テーマ】「総合診療医への道〜Neural GP Network〜」
 【参加者】42名(うち学生13名)

第1部は、白石吉彦先生にご講演を頂いた。先生はご自身の学生時代、出身県である徳島県での診療、隠岐島前病院での22年、そして地域のニーズに応える総合診療マインドを持つ県内の病院とその仲間たちの存在についてお話し下さり、先生のスケールの大きさに圧倒された。学生時代のナナハンバイクからソーシャルダンス、原体験として語られた地域医療実習や中国への1年間留学、アメリカ5週間留学等、学生達は今の自分とすり合わせ、心揺さぶられるものがあったのではないかとと思われる。また、しまね総合診療センターについて、神経組織のように地域と大学が繋がりがながら本格的に始動していくと話された。

第2部は県内9病院の総合診療専門医育成プログラム説明会で、参加した学生も多く、総合診療医に対する関心の高さが窺えた。



令和3年3月15日(月)~19日(金)

令和2年度 地域医療体験実習Ⅰ (春季地域医療実習)

【参加者】28名(1年生15名、2年生10名、3年生3名)
 (島根大学26名、北海道大学1名、琉球大学1名)

地域医療体験実習Ⅰ(夏季春季地域医療実習)は、昨年3月の春と8月が新型コロナウイルス感染症により中止となり、2019年の夏季以来1年半ぶりに実施となった。

島根県7圏域の保健所を中心に、圏域の医療機関の協力を得て企画された実習である。島根県は東西に長く、市街地の地域医療・中山間地の地域医療に離島医療と学ぶ場は多彩である。基本2泊3日の実習が組まれ、初日は、保健所長より管内の医療の概況を聞き、午後からはそれぞれの病院に赴き実習がスタートした。

座学を離れ、やや緊張した面持ちながら、学生達の参加動機を述べる表情・内容には、臨地で学ぶことの期待が溢れていた。最終日にはオンラインで報告会が予定され、学びを共有する。



セミナー報告

SEMINAR REPORT



地域医療Webinar



若手医師が語る地域医療の魅力 ~医療を繋ぐ6年間の実践~

【実施日】令和3年1月22日(金) 18:00~19:00

【講師】公立邑智病院 総合診療科 山崎 啓一 先生

【参加者】13名

概要

先生には、総合診療医として、あらゆる年代の患者さんとその病気に向き合ってきた経験から、地域医療の魅力をお話し頂いた。

また一方で、先生ご自身が医師としての歩みを俯瞰し、医師としての義務や責任をどのように捉え、考え、行動に繋がられてきたのか、学生に多くのメッセージを頂いた。

学生に大切にしてほしいこととして、「自分で考える・行動する力、謙虚な姿勢と感謝」が伝えられ、「聞く」「学ぶ」「考える」「実践する」「つなぐ」のサイクルと人としてあるべき姿を具体的に説明頂いた。

そして、地域医療の最大の魅力を「地域で患者さんを診ることは、患者貢献という達成感が実感でき、『自己実現と社会貢献の両立ができる』ことである」と締めくくられた。

Career Webinar



【実施日】令和3年1月25日(月) 12:15~12:45

【講師】島根大学医学部 環境保健医学講座 教授 名越 究 先生

【参加者】16名

概要

大学卒業後、医療制度等の大元からの改革を志し、進路としては珍しい医系技官として当時の厚生省に入省された。地方自治体や本省等様々な地で活躍されてきた。医系技官の仕事は診療報酬・医療・疾病対策までであるが、その役割は最高の公衆衛生を国民に与える事であり、現在注目が集まるコロナワクチン等の対応もしている。先生は丁度1年前に防衛省におられ、ダイヤモンドプリンセス号支援の指揮を執っておられた。

今後は、人材育成と地域保健医療福祉の充実を目指し、学生教育にも力を注いでいく事を熱く語られた。縁の下の力持ちの様な主流ではないけれど、社会の本質に関わる大切な仕事をされていた先生から、求められている役割に誠実に向き合っていく事の大切さを教えて頂いた。



我が国の災害医療体制について

【実施日】令和3年2月22日(月)18:00~19:30

【講師】東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科 救急災害医学分野 教授 大友 康裕 先生

【参加者】70名

概要

阪神・淡路大震災と東日本大震災を筆頭に、平成の時代は多くの災害に直面した時代として記憶されている。発生直後の急性期から、被災者らが避難生活を送る慢性期まで、その都度、さまざまな教訓を得て、DMAT(災害派遣医療チーム)の発足やEMIS(広域災害救急医療情報システム)の整備がなされてきた。災害医療体制も時代に合わせて進化を遂げ、熊本地震ではそれらの教訓が生かされ、有効な救助活動が行われた。先生は、今後も防ぎえた災害死を可能な限り減らしていきたいと話された。

災害医療の第一人者である先生にお話し頂き、日本の災害医療体制について、知見を深めることができた。また、いつ起きかわからない災害に備えて、常に準備態勢を整えておくことの重要性を強く感じた。



【実施日】令和3年2月15日(月)12:15~12:45

【講師】島根大学医学部リハビリテーション医学講座 医科医員 石原 弘基 先生

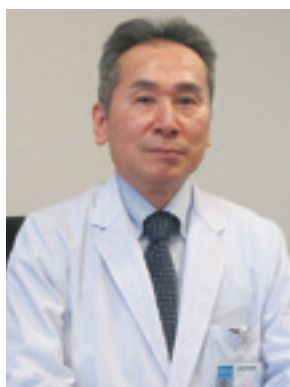
【参加者】15名

概要

先生は近年入局者増加中のリハビリテーション科の若手チーフとして活躍されている。リハビリテーション科医の仕事はイメージしにくい、「通常の薬だけでなく、生きた薬(療法士)を治療として処方し、患者・家族の生活・人生(ADL・QOL)の向上をサポートする」と明快に説明頂いた。

リハビリテーション科の魅力は専門領域、対象患者、医師業務、研究分野など全てにおいて多様性があることである。高齢化に伴い患者さんの背景因子も複雑化、領域も心臓・周術期・アスリート等拡大しており、益々ニーズは高まっていくと思われる。

リハビリテーションの現状や今後について大変わかりやすくお話し頂き、選択科として興味を持つきっかけとなった学生も多くいたのではないかと思います。



独立行政法人 国立病院機構
浜田医療センター

病院長
飯田 博 先生

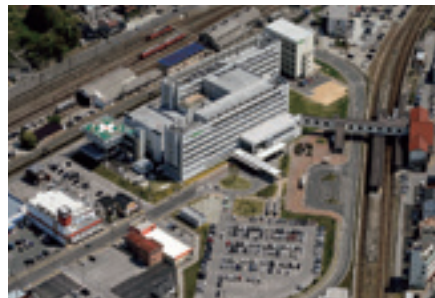
新型コロナ感染症拡大に伴い人々の生活は大きく変化しました。会社での仕事にテレワークが導入され、会議や学校の授業までもオンラインに変わりました。ポストコロナの社会ではICT化が加速し、医療従事者の働き方も大きく変わっていくと思います。

人口減少社会において医師偏在の問題解消のため、病院の統廃合や医療制度の変更が行われます。医師の数が少なくなる一方で、高齢化社会が進むことで、医師の求められる役割は専門的診療のみならず、幅広い疾患への対応や福祉・介護との連携、地域社会での健康教育から緩和ケアや看取りまで多様化し、地域での医師の活躍の場は多岐に渡ります。

現在どの地域でも高齢者の福祉・介護が問題となっていますが、これからは高齢者の健康寿命を延ばすための方策が必要となります。地域医療では顔の見える連携を構築し予防医学を前面に出して、その地域での生活を支えるインフラづくりが重要と考

えられます。そのためにはオンライン診療サービスなどのICTを駆使して、画面を通して患者さんの健康状態を判断し、その変化を察知できる観察力やそうした環境への適応力が大切だと思います。

皆さんのこれからの活躍を期待しています。



独立行政法人 国立病院機構 浜田医療センター
〒697-8511 島根県浜田市浅井町777番地12
TEL:0855-25-0505(代)



えんネットホームページ リニューアルしました!

えんネットは医師の相談窓口として、「えんネットマガジン」「活動報告」「相談窓口」などを載せております。ぜひ覗いてみてください!



えんネットホームページ
QRコード



今後の予定

Career Webinar

令和3年4月20日(火)12:15~12:45

講師:城有美先生
島根大学医学部感染制御部 感染対策専任者 助教

令和3年5月10日(月)12:15~12:45

講師:林健太郎先生
島根大学医学部高度脳卒中センター 教授

令和3年6月14日(月)12:15~12:45

講師:持地美帆子先生
島根大学医学部眼科学講座 医科医員

地域医療Webinar

令和3年4月19日(月)18:00~19:00

講師:木島庸貴先生
島根大学医学部総合医療学講座/大田総合医育成センター 講師

令和3年5月17日(月)18:00~19:00

講師:平原佐斗司先生
東京ふれあい医療生活共同組合 梶原診療所 所長

令和3年6月予定

講師:上野伸行先生
浜田市国民健康保険 あさひ診療所 所長

CHECK

